

SAFETY

Lexus Safety System +

人・クルマ・交通環境の「三位一体の取り組み」とともに、実際の事故から学び、改善を繰り返す「実安全の追求」の推進から生まれた予防安全システムが「Lexus Safety System +」です。2種類のセンサー（ミリ波レーダーと単眼カメラ）による高い認識性能と信頼性、事故低減効果の高い予防安全装備をパッケージ化しました。そして、これまで取り組んできた安全システムの連携を進化させることで、レクサスは、皆さまに高い安心感をご提供します。

ADVANCED SAFETY [Lexus Safety System +]

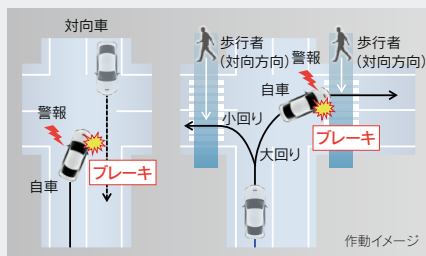
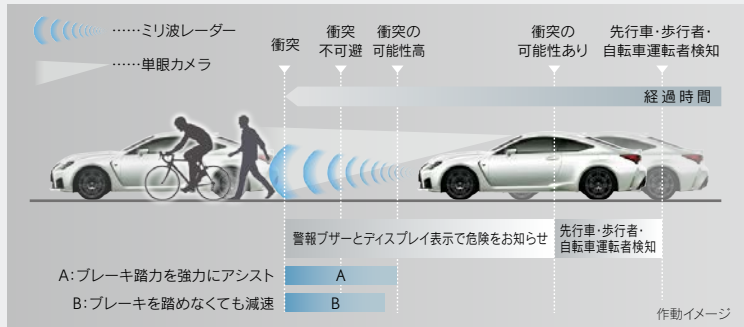
ドライバーに安心感をもたらす、予防安全システムをパッケージ

交差点と緊急時でのサポートが進化した

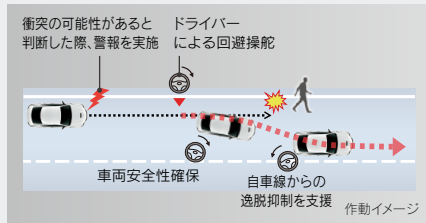
プリクラッシュセーフティ(歩行者[昼夜]・自転車運転者[昼])

検知機能付衝突回避支援タイプ/ミリ波レーダー＋単眼カメラ方式)

前方の車両や歩行者(昼夜)、自転車運転者(昼)をミリ波レーダーと単眼カメラで検出。警報ブザーとカラーマルチインフォメーションディスプレイ表示で衝突の可能性を知らせ、ブレーキを踏めた場合はプリクラッシュブレーキアシスト。ブレーキを踏めなかった場合はプリクラッシュブレーキを作動させ、衝突回避または被害軽減をサポートします。プリクラッシュブレーキは歩行者や自転車運転者に対しては自車が約10～80km/hの速度域で作動し、たとえば、歩行者との速度差が約40km/hの場合には、衝突回避または被害軽減をサポートします。また、車両に対しては自車が約10km/h以上で作動。たとえば、停止車両に対し自車の速度が約50km/hの場合は、衝突回避または被害軽減をサポートします。なお、対向車に対しては減速して衝突時の速度低減をサポートします。



交差点右左折支援
交差点右折時に直進してくる対向車および右左折時に対向方向から横断してくる歩行者をミリ波レーダーと単眼カメラで検出。ブザーと表示で衝突の可能性を知らせ、その後プリクラッシュブレーキを作動。衝突回避または被害軽減をサポートします(自転車運転者は検知しません)。



低速時加速抑制

低速時の自車の直前にいる歩行者、自転車運転者、車両をミリ波レーダーと単眼カメラで認識。前方に対象物がある状態で、停車または徐行状態からアクセルペダルが必要以上に強く踏み込まれた場合には、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制し、衝突回避または被害軽減をサポートします。
※プリクラッシュブレーキはドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態、天候状態およびドライバーの操作状態、歩行者や自転車運転者の状態等によっては、作動しない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。本機能を過信せず、必ずドライバーが責任を持って運転してください。数値は社内測定値。

車線をトレースして運転支援する

レーントレーシングアシスト[LTA]

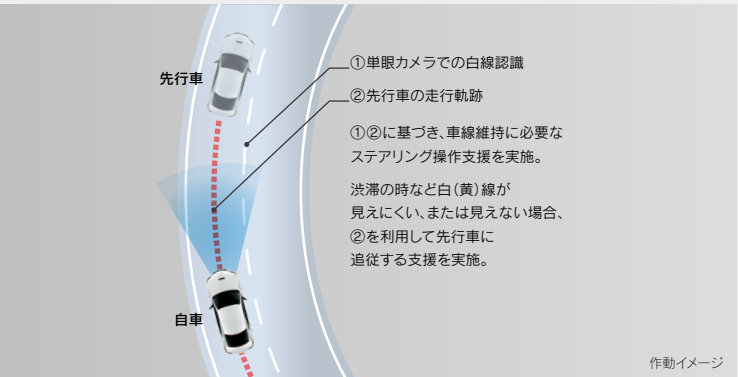
高速道路や自動車専用道路を走行中、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)の作動時に、車線維持に必要なステアリング操作支援を行うことでドライバーの運転負担を軽減します。また、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)を使用していない場合でも、車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能は作動可能です。



車線維持支援機能

緩やかなカーブでの支援に加え、滑らかにふらつき少なくレーン中央をキープする走行が可能です。カメラ認識技術の向上により、レーントレース性能が大幅に向上しました。白(黄)線が検出困難な場合でも先行車に追従する支援を行います。また、曲がりきれず車線を逸脱する可能性がある場合には、表示による注意喚起を行い、ドライバーのステアリング操作を促します。

※状況によっては注意喚起が表示されない場合があります。



車線逸脱警報機能 / 車線逸脱抑制機能

車線から逸脱するおそれがある場合にカラーマルチインフォメーションディスプレイへの表示、およびステアリングの振動または警報ブザーにより警告するとともに、車線からの逸脱を避けるためのステアリング操作を支援します。さらに、車線の判断については、白線だけでなくアスファルトと草・土・縁石などの境界から逸脱すると判定した場合も支援します。

※安全性の観点から、ドライバーはステアリングを持ち続ける必要があります。手を放すと、車線逸脱抑制機能と車線維持支援機能が停止します。
※レーントレーシングアシスト[LTA]は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者はつねに自らの責任で周囲の状況を把握し、ステアリング操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
※車線逸脱警報機能(車線維持支援機能中は除く)、車線逸脱抑制機能は約50km/h以上で作動します。
※例えば次のような条件下では、車線維持支援機能、車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能が正常に作動しない場合があるため、使用しないでください。●車線と見間違えるような路側構造物がある時(ガードレール、反射ポールなど) ●分合流付近を走行中 ●急カーブを走行中 ●雨・雪・霧などで車線が見えにくい時 など
※例えば次のような条件下ではシステムの作動条件が満たされず車線維持支援機能、車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能の作動をキャンセルする場合があります。●車線を見失った時 ●ドライバーの追加運転操作を検知した時(ステアリング、ブレーキ、アクセルの操作など) など
※車線逸脱警報機能、車線逸脱抑制機能は走路の境界がはっきり見えない場合、または直線的ではない場合には正常に作動しない場合があります。
※故意に車線から逸脱して走行するなど、システムの作動を確認する行為はたいへん危険です。絶対におやめください。
※車線維持支援機能が先行車に追従する支援を行う場合、先行車が車線を右、または左に片寄って走行、または車線変更した時は、先行車の位置に合わせて自車も片寄って走行し、レーンをはみ出すおそれがあります。先行車がいらついた時は、自車もふらついて走行し、レーンをはみ出すおそれがあります。



RC Fは「セーフティ・サポートカー」です。

セーフティ・サポートカー(サポカー)は、政府が交通事故防止対策の一環として普及啓発しているものです。自動(被害軽減)ブレーキ[対歩行者・対車両]の安全運転を支援する装置を搭載し、ドライバーの安全をサポートします。

■Lexus Safety System +

車間距離を保ちながら追従走行する

レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)

ミリ波レーダーと単眼カメラを使って先行車を認識し、車速に応じた車間距離を保つことで追従走行を支援します。先行車が停止したときは、自車も停止して停止状態を保持。先行車が発進したときは、ドライバーの操作によって発進し、追従走行を再開します。高速道路の渋滞走行時など停止発進を繰り返すシーンで、ドライバーの運転負担を大幅に軽減します。ミリ波レーダーの検知角度広角化と、単眼カメラによる広い前方認識範囲により、特に前方車両に対する割り込み検知にすぐれた認識性能を確保しています。また、約80km/h以上で、ウインカー操作をした際は、遅い先行車がいても、追い越しに向け徐々に加速を開始し、スムーズな走行を支援します。さらに、レーダークルーズコントロールで走行中、システムが必要と判断した場合、ステアリングの切り始めて速度抑制を開始するカーブ速度抑制機能を装備しています。

※本機能は、ドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

ロー・ハイビームを自動で切り替える

オートマチックハイビーム[AHB]

夜間走行時に、周囲の明かりの状況によりハイビームで走行可能と判断した場合、ロービームをハイビームに自動的に切り替え、前方視界確保をアシスト。先行車や対向車などを検出するとハイビームからロービームへ切り替え、ドライバーの切り替え忘れを防ぐとともに手動操作の煩わしさを軽減。スイッチ操作でオフにすることもできます。

※自車速度約30km/h以上で作動します。
※ロー・ハイビームの切り替え自動制御には状況により限界があります。運転時はつねに周囲の状況に注意し、必要に応じて手動で切り替えるなど、安全運転を心がけてください。

⚠ Lexus Safety System + を安全にお使いいただく上での留意事項説明

Lexus Safety System + は予防安全パッケージです。

ご契約に際し、Lexus Safety System +、およびその各システムを安全にお使いいただくための留意事項についてご説明いたします。

- ご使用になる際のお客さまへのお願い
- 運転者には安全運転の義務があります。運転者は各システムを過信せず、つねに自らの責任で周囲の状況を把握し、ご自身の操作で安全を確保してください。
 - 各システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 車両姿勢が変化する架装・改造や、各システムのカメラ・センサーを遮るような架装・改造を行うと、各システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ご使用前には、あらかじめ取扱説明書で各システムの特徴・操作方法を必ずご確認ください。

※安全装置の各機能の作動には、速度や対象物等の条件があります。また、各機能はドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、道路状況、車両状態、天候等により作動しない場合があります。詳しくは、取扱説明書、またはlexus.jpをご覧ください。レクサス販売店におたずねください。

※安全装置はドライバーの安全運転を支援するためのものです。機能を過信せず、安全運転を心がけてください。

道路標識を表示し告知も行う

ロードサインアシスト[RSA]

単眼カメラで認識した「最高速度」「はみ出し通行禁止」「車両進入禁止」「一時停止」の道路標識を、カラーマルチインフォメーションディスプレイに表示します。道路標識の見落としを減らし、安全運転を促します。また、単眼カメラによって認識された「最高速度」「はみ出し通行禁止」「車両進入禁止」の道路標識に対し、違反動作を行っている

とシステムが判断した場合、表示の反転や点滅でドライバーに告知する機能もあります。

※カスタマイズにより、ブザー音(「最高速度」「車両進入禁止」)/ステアリング振動(「はみ出し通行禁止」)を作動させることや、告知無しにすることも可能です。

※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

カラーマルチインフォメーションディスプレイ



最高速度超過告知

カラーマルチインフォメーションディスプレイ



先行車の動きをミリ波レーダーと単眼カメラで検出し、自車が先行車に続いて停止後、先行車が発進し一定距離を走行してもなお自車が停止し続けている場合に、カラーマルチインフォメーションディスプレイ表示、およびブザーで先行車の発進をお知らせします。

※シフトポジションが「P」「R」以外でブレーキペダルを踏んで停車している時に作動します。シフトポジションが「N」の時、またはレーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)機能が自車が停止した場合、さらにシフトポジションが「D」の時にブレーキホールドを使用した場合は、ブレーキペダルを踏んでなくても作動します。

※先行車が約4m以上進んでも自車が止まったままだとシステムが判断した場合に作動します。なお、機能のON/OFFおよび通知タイミングの変更が可能です。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

※装備類の詳しい設定につきましては、主要装備一覧表でご確認ください。

EQUIPMENT

■パフォーマンス



4連エキゾーストマフラー / リヤディフューザー

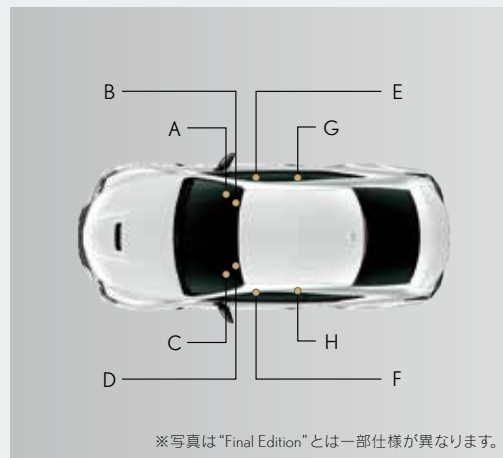
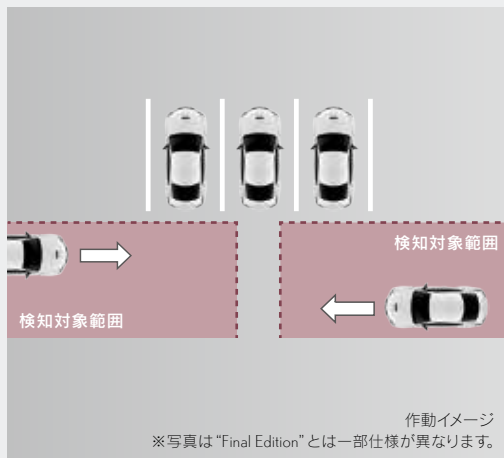
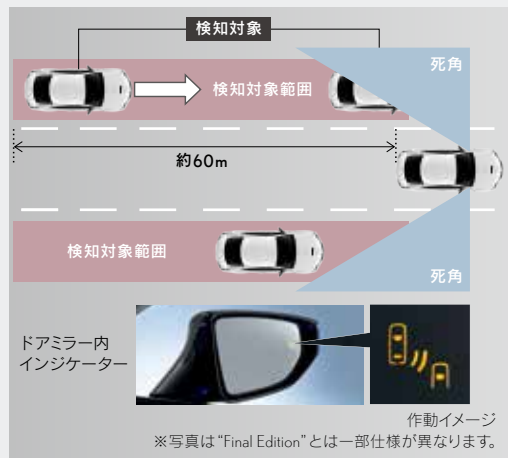
"F"を継承するトラペゾイダル(台形の)テールパイプ。フィン付きのリヤディフューザーは整流効果を高め、操縦安定性に寄与します。

カーボンアクティブリヤウイング(格納式)

ダウンフォースを高めることで、コーナリング時の車両挙動の安定に寄与します。時速約80km/h*でアップし、約40km/h未満でボディに自動格納。マニュアル操作でのアップ・ダウンも可能です。

*ECOモードは約130km/hでアップします。

■セーフティ



ブラインドスポットモニター[BSM]

走行中、ドアミラーでは確認しにくい後側方エリアに存在する車両に加えて、隣接する車線の最大約60m後方までモニターし、急接近してくる車両も検知します。車両を検知するとドアミラー内のインジケータが点灯、車両を検知した状態でウインカーを操作するとインジケータが点滅し、より注意を喚起します。

※検知対象の目安となる大きさは、ブラインドスポットモニター[BSM]は小型の二輪車よりも大きな車両となります。一部の特殊な道路状況等では、静止物に対してもインジケータが点灯する場合があります。
※道路状況、車両状態および天候状態等によっては、ご使用になれない場合があります。詳しくはレクサス販売店におたずねください。
※ブラインドスポットモニター[BSM]およびリヤクロスストラフィックアラート[RCTA]はあくまで運転補助機能です。本機能を過信せず、運転に際してはドライバーご自身で周囲の安全状況を直接確認してください。詳しくはレクサス販売店におたずねください。

リヤクロスストラフィックアラート[RCTA]

駐車場から後退する際に、左右後方から接近してくる車両をブラインドスポットモニター[BSM]のレーダーにより検知。ドアミラー内のインジケータ点滅、およびブザーでドライバーに注意を喚起します。

SRSエアバッグシステム

- A 運転席デュアルステージSRSエアバッグ
- B 運転席SRSニーエアバッグ
- C 助手席デュアルステージSRSエアバッグ
- D 助手席SRSニーエアバッグ
- E 運転席SRSサイドエアバッグ
- F 助手席SRSサイドエアバッグ
- G 前後席SRSカーテンシールドエアバッグ(右)
- H 前後席SRSカーテンシールドエアバッグ(左)

※SRSエアバッグシステムは衝突時の条件によっては作動しない場合があります。SRSエアバッグはあくまでシートベルトを補助する装置ですので必ずシートベルトを着用ください。

＝ 標準装備

※装備類の詳しい設定につきましては、主要装備一覧表でご確認ください。